

お知らせ

(送配電カンパニー関係)

2019年4月26日
東北電力株式会社

今夏の需給見通しについて

今夏の電力需給対策については、電力広域的運営推進機関による需給検証を経て、本日、経済産業省の電力・ガス基本政策小委員会において取りまとめられました。

この取りまとめの中で、当社エリア（東北6県と新潟県）の今夏の需給見通しについては、至近10年で最も猛暑となった年（7・8月は2018年度、9月は2010年度）と同程度の気象条件となった場合であっても、下表のとおり、電力の安定供給に最低限必要とされる予備率3%を確保できる見通しとなっております（※）。このため、同省からの節電要請はなされておられません。

【2019年度 今夏の需給見通し（供給予備率）】

		7月	8月	9月
2019年度 見通し	最大需要発生時刻 (15時)	5.3%	4.7%	11.3%
	予備率最小時刻 (17時)	4.6%	3.6%	11.5%

当社といたしましては、震災以降、高稼働を続けている火力発電所の予期せぬトラブルによる停止や、猛暑による電力需要の急激な増加など、不測の事態が発生するリスクはあるものと考えております。引き続き緊張感を持って設備の運転・保守にあたり、安定供給に万全を期してまいります。

以上

※ 従来、夏の需給状況については、需要が最大になる時間帯と、予備率が最小となる時間帯が一致していたため、需給検証においても需要が最大となるエリアが多い15時での検証が行われていた。近年は太陽光発電からの供給力が減少する夕刻に、予備率が最小となる傾向があることから、今回の需給見通しにおいては、従来の「最大需要発生時刻（15時）」に加え、予備率が最小となるエリアが多い「予備率最小時刻（17時）」での検証も行われたもの。

【添付資料】

(参考資料) 当社エリアにおける今夏の需給見通しについて